

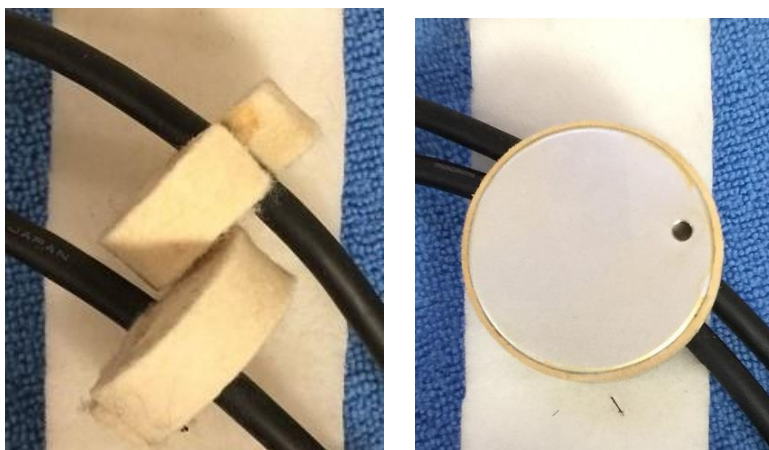
ヴォリュームアキュライザーの活用(16)
ーアナログシステムへの適用(2)ー

1. 始めに

前報(15)に引き続き、アンプのヴォリューム以外の応用としてアナログ系の応用を試していきます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴方法

アナログ再生系の適用対象として LINN LP-12 のフォノケーブルを候補にあげました。フォノケーブル以外のケーブルは、インフラノイズのリベラメンテシリーズを使用しており、ウールのカバーを被せていますので、VRA-7を貼ることを躊躇しています。なお、フォノケーブルは、現在は、ケーブルチューナーで挟んでおり、それとの比較となります。今回は、前報(15)で ZANDEN Model 120 のバランス入力段に使用しているバランスアナログアキュライザーに貼っている VRA-7 を剥がしてケーブルチューナーと入れ替えます。なお、前報(15)で TruPhase の出力段に使用したアナログアキュライザーの VRA-7 はそのままとします。



試聴したアナログ盤は前報(15)と同じく次のとおりです。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲
ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル
Angel (東芝 EMI) AA 9117・C
ゲオルグ・フードリッヒ・ヘンデル メサイア
オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. ヴォリュームアキュライザーの試聴結果

順序としては、バランスアナログアキュライザーに貼ってある VRA-7 を剥がし、フォノケーブルにはケーブルチューナーを残した状態で聴いておき、次いでケーブルチューナーから VRA-7 に入れ替えて聴き直します。

フォノケーブルのケーブルチューナーから VRA-7 に入れ替える前でも、すでに TruPhase と Langevin 6V6 アンプのヴォリュームと TruPhase 出力側のアナログアキュライザーに VRA-7 が適用されていますので、随分とクオリティの高い音を聴かせてくれています。

さらにフォノケーブルのケーブルチューナーから VRA-7 に入れ替えますと、バッハの Sonatas & Partitas は、豊かな響きはそのままだ音が澄んで透明度が上がってきます。

選帝侯のソナタは、豊かな響きはそのままだ打鍵が明瞭になり、演奏の品位があがってきたように感じます。

ワルキューレは、わずかに残っていた音の滲みが消え、オーケストラの音の分離と協和がしっかりしてきますし、ソプラノやメゾソプラノの声も澄んできます。

メサイアは、音が整理させて痩せてくるのではなく、整理された上で迫力はそのままだ響きが豊かになります。

上記のとおり、バランスアナログアキュライザーに貼っていた時の音色と変わらず、透明度が上がりつつ、芳醇な響きになり、ケーブルチューナーの効果よりは積極的でした。フォノケーブル以外のケーブルとしては、インフラノイズ製のケーブルを使用していないサブシステムのケーブルで試してみたいと思っております。

4. まとめ

LINN LP-12 のフォノケーブルのケーブルチューナーを VRA-7 に替える効果を認めました。

以上